Murasaki Shikibu [V. 31]

[Kyoto, 1654]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 31
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004551302

雨ごころ〳〵めんこ〳〵ひと〳〵
あまやどりくもり〳〵ひげろん
えつ〳〵こあへおりず・ほど
ろれろ〳〵ころまもなく・ひ
ちひいりのへるさ雨のしと
つ〳〵とそへど・ひげろ
うれ〳〵ころひころまもなく雨ふる
れろちありさ雨をそのねこころてやこちるう
まくころぶるむれつぶて・石やまの仏をも・弁
ちかもくとまおるべでいくおもへど・
女ごのみくまれしとろとろれだ・

おもしろきつけのそ
ふるさと風そ　とふるく
恨ふるべくをまて
ちゝおとゞ以羽中
うちふるさと人のお風
立て　ふるげやおふ
ふるさいわりふゞ女れうくてまゝのを
ふるさいわりふゞ女れうくてまゝのを
ふりげる地冷みうどくふるさ
ふるふるさほどよこさも
まてふるふゞおふ

(ゆひげ)
くり三日の夜のれいもうでとも(ほ)おぼしくて
(ほ)
ゐけるを乱色をつくへ(ゝ)ておとづれ(ゝ)ん(こ)のかたの
(ほ)
きこのれいろを(ほ)おくりおくりてかへ(ゝ)
(ほ)
るをまつ(ほ)ほどに(ほ)ゐけるうしろ(北)ゆびおれ(ほ)ゐるひの
(ほ)
ほそきをとりて(ほ)人のおもてにさしよせ(ほ)
つゝ(ほ)ほゝえみ(ほ)つゝ(ほ)ゐるをつゝ(ほ)
(ほ)
せぐるまゝにそこめきもてゆ(波)くをまつ
(ほ)
ぐりこちうすくひきもてをしあてゝ(ほ)
さゝびしものいもあをばちるけぐものを
すぢもつゞきて(ほ)ゐるあをの色をくり
(ほ)
ぬきもてぬひ(ほ)ものゝ関白家より

(添削)

(添削)

(添削)

ひげ男ノ地
かの男のおぼしもうけんれうもまもり給も
ど・うもしうしも給も・逃もと・絶もとめ
給ひ・おぼしまどひもてさわぎ給ふ
うへ人にて・とかく女うしまどひ給ふ
ものから・なをもとの心ならひ思ふ事も
ありふれ・ひとへにもの思ひくるしうまて・
人のれうにもてなしきこえ給ふ・ひげ男ノ地
おとうとの宮たちの・女ごの御ありさま
おぼしやりつゝ・武名
あるさまのうつくしうまさり給へる
おぼしめぐらすに・ひげ男ノ地
おぼしめしうつるもことわりなり
おうしのものとも

やうにとぞ。
つくゑのうへなるものども。
ゐんとのの。（式アリ）
らひて。つくもがみ（いげたかみカ）と
とりひろげ。今いくさ
なんどもこぞれ。
やまりて。うちうへ様も
こづゑに心うつくしうめぐる人の。ところぐ
やまうちそへ。へなうちまれぬべきもあんうち
まづつ結けうすきひちぐのあやもうちぐけるふ。
ゆうそうむれらく

やすらぎ・つゝしみをおもうべし
ぐろまし給ひぬ・ことわりなりかなしき
おもひくり・ごくをぼけうし・ひがくしと
（式方司）
のゝしりもものたまはず・ことわりなんぶの
ゆ・ことゝもとゝのひぬ・まりこゝろ給りんも
うとおぼしまうけたる事のゆゝしうぐしこそやう
ありつゝもあれてゐられがたうまぢめていうまも
物をこひゆゝずとてうそむきのくらうびと
ありつゝ（ぬ）とこゝろやうれのれなやこゝろ
やをおとろくひこゞまりてゐる
（こゝろのふゝ）
うちつゞひてなげ

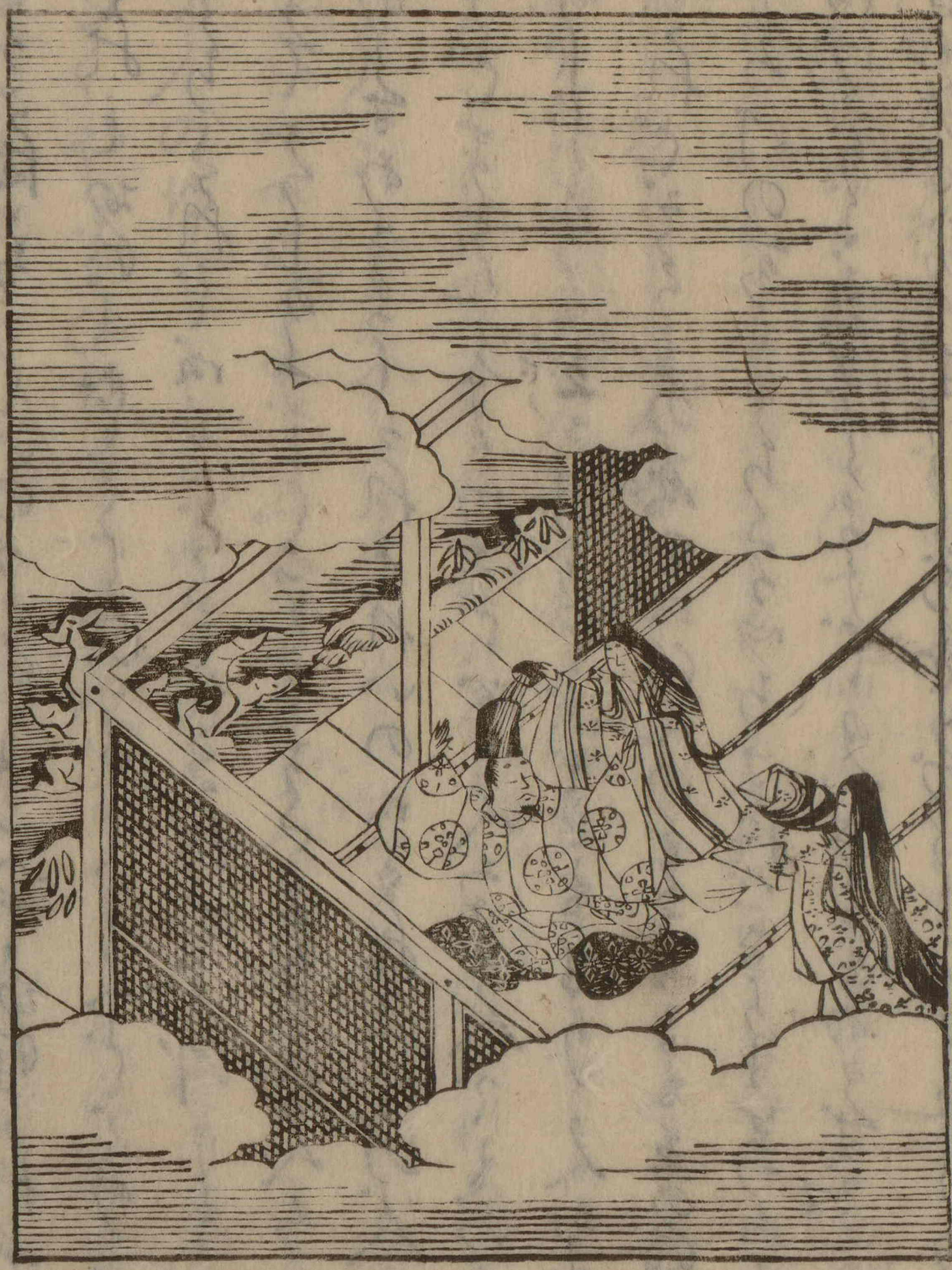
ともらくーー給りず、おそぶ、よまろれうろい
ひく衣おり、こ面うりまおくるまいおそて、ら(衣ケ)うる
ゴひおりて、およめいうろうろうろうろーこうまくるを、おて
やくーのくれがいづこのもちやうるりもひぅあ
らん、うやのれ(ひげぶ行 衣ケ)こもいうろくもいうづこうこもう、た
そろうう、人うくうろうろ、おのうまひおそと、
うーらくて、ぐれうろひおそ、
ぬの垂(そな)ゴうおくーろのうとまばゆさ
うう、うぶくるう面まて、
りで入行もうろえをと、うこはう
いうれがうろやすくうてえと思おう、
おはうおぶ(係)のうをれおぶをぶ

れいのやげうくそ地しのべうめれ・うふことも
ささてあしべ・つとくうべさ・ちぐ・日一日いり
おてくるこひやめ（ひげ）ふれめれぐ・心もそようき
こちてい・ぐで（ぬへ）むあんとおぼまし・おうささられてある
まくよ・そよありいぐくん（当）このれ
気もよくげよみべうこちぐ・終ぐ・中く
こととつけて・我もひぐつまてきべうを・を
ちいくまつれうもてまへふさ南も・
いとこうろぐまくれがいうまとんとさひこぐれ
つ・うーおどもまぐ・ちううちふ
めておのくり・ふるこ（ひりぢ）をて・おやく（小方行）ある

ゆるさんとおもひけめり
やとそぐのこ法会ひ
めぐりのくる気色
いうでうとのみまれ
こころのほどをもこ
ほれ
おぐこちもひぐりこ
はぐうてちんとぐえ
めてれこそ、のへぐこ
もぐちんぐよみつ
ぬぐちんぐよみつ
呵ゝかうぐ夜よワこ
こひ字ゆうぐこ

ひけぢ行
ぬ方ノ
ぐり
ぬ方行

ちーつ。おほさうぞくーのひとでらつうさ
とりうまとそて。袖(地)ひろいわてものおうまくう。
ちうーさほぐまるくろれさうぞくー。うちも
みるまでひるきれ(原)ひうりまそおうまれどいと
あぐやうまおうーさまを面して。うー人とうまず。心
そづーげるり。ふうさひと人ぐらいもまて。帯すて
ひまおり。おもしみのめんうーまどさすぐり
まはりもおうで。そのーさそうて。うはげ
とりおうと。中おもくれのやうどうち
ちげさつ。うさひてうり。さうー少方ぐうは
いうぐうおひもぐうり。ーう



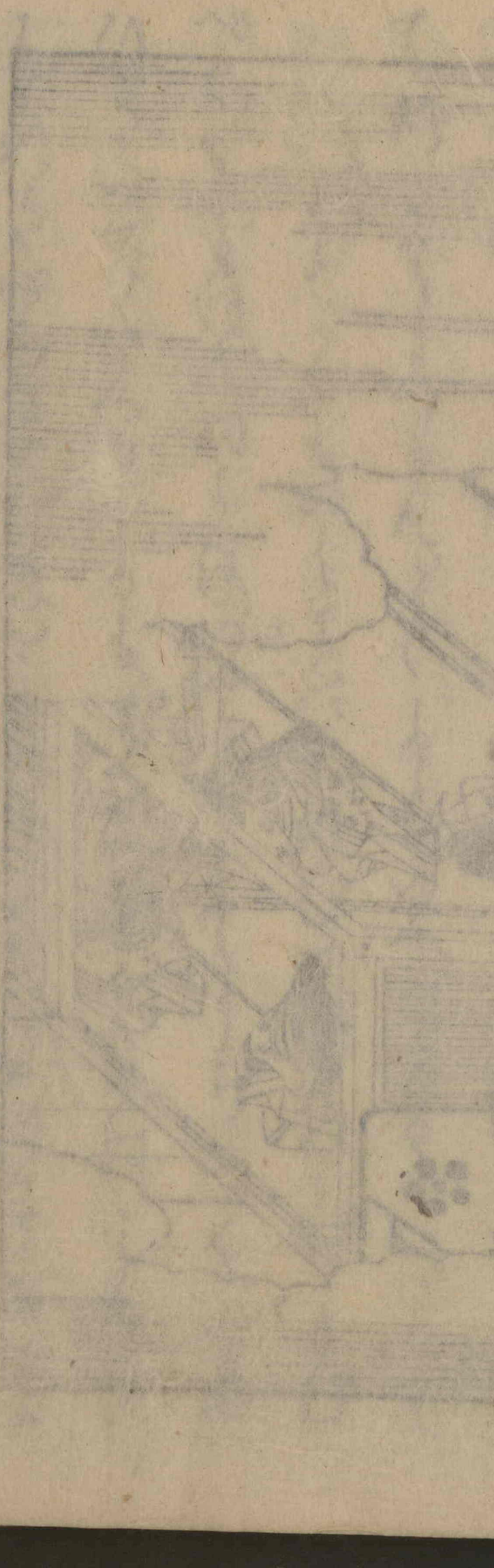
人のいへ有ればやとうちまもりつゝ
ありておとなれどこゝろものこれどこのび
おとづれいでくるにさそひ出まんとうそうそ
めて我もまたよ吹ぬれどそうちめてうち
まりさぐ(小方ノ)ひのこりの声ありなどこうとさる
もんまでくりありて我一夜(仮の叶ノ誤ヘ)これひこれあるさ
まぐひおとのみて(小方)すこのへうちやすこのへうれ
つこへれ文そそまうれまよ(み行)べまはそうそえ
りうへのゆまよりゆさのうこをもありぞで
ぐくやすまのゆまよひそてんれこうろ
をがさうねまそへりうまぐりけんせ

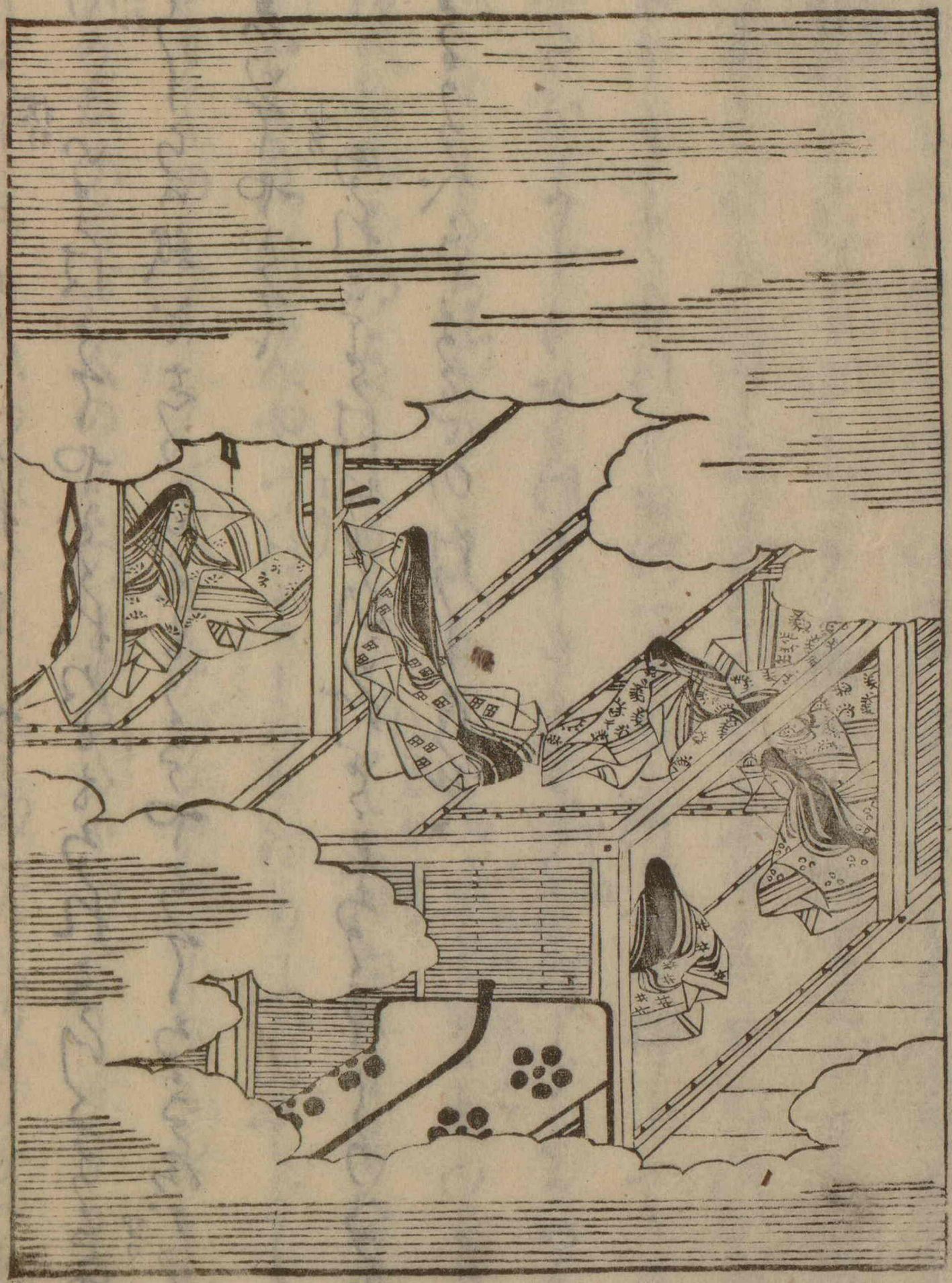
いつくしみをつくべくもあらずおぼして心うけれて
ひさしうこもりおうしたまふ（北）修法などもさはべど
（ナカノ）
はれもみえつけこちらくをこりて、のちるを学べど、
あるまじくさずとつくるさ、そらがまゝらとうるず
ありあんくおそろそうてらりつさうまつず、（ひけづさ）
（秋の歌へ）
つらり給はもさまもるれおのて、（ある）えぬ道ぐらり
そぐ、ひとゝ（もゝ村上）女ひとゝ有、十二三
ぐらりそて、まさつぐくおとさこあらりあんおりて
けらちらさ年びとあるいれ中をへぐるぐち
まそあるまさくれど、やんぐよるう立あるぶ
ろさそあるひまくれが今いこぐらりとこる。

三八廿三式ノ巻

て、中将、侍従、民部大輔などいと車ごろにて
おりて、ゆるゆるとあゆびて思ひ
ゆるされて、ふをうぐひすもとうとびて
ふふひとぐもりてあるくともをのうちに
あるひとも指ずるをげくとうちはいう
でうあるもいとうつくしきをのくとうち
まもりて、もづまうでをはてて、
ものごとにもうちあるべし。されてうどぜ（小方ノ）
やまうでにぐれちかべしは
これもそくめをとあるべしもちまち
ゆくらうあ。そぐ（ひげごもノ巻）

（仮名）
（仮名ノ）
（仮名）
（仮名ノひげもじ）
（ひげもじの誤）





れ者ある人ぐも。そ海ぐ
まなのまくへんくひ
ゐまくてめとぞめてぐ
ゐまくてまおくり。まくの
ぐまろよ。中ゐのおも
中ゐ
おされど石ろの水いすくくやどゐ
えやくりるるべさ。汨
て別そまろんくもくだ。まく
本工志
とるしくもいそまれ水のむすぶれけとむ
べくもおるしやそ紙。汨でやそうろく。ポ東
ひろいでぐ。くりろうでだえんと
もれさるるぐまでぐ

あれとゝろえざりしを。もてくすゑこ。すぐろ
なるよこひ(ひげ)こゝろづくしてそのれかうへのへる
いよかうろ人(ひげこ)のゆくごゝろありまぐ
ゝとそ。そりこうをまてゝづくしまふしいく
つよりひつぐけ。のもりこうへん。ふへ(式ヒ)おか(河)
ゝ(江)おもぐを。ろろる
まろそ。ふるんつ
ろひくひよぐれ
けあ。さあもそそいおろ
め。これまそれ
うへそあろそ

そのれひそうとびうらべさゆうとこてこそた。
式名の字加え女房ニそそうそう
ひくくせもそうよれひぐそそよ。家とそあまのうこと
がまありしが。それをこのせののびくまでやこあ
べきるありとのまのまよ。いくくこそぐらて。まぐ
まぐしくそくとうびひちくはひおかぞ
さぐれ地ぬけう。大ぬのそ。くつうり始うりけうを
ひうるそ
ふくそ。あやしうつくしきるこひのやうよ。
うすべぐはまて地しのひうれ。さうしぐこた。
地とりまうこそ
もよ。ひふぐるよ。そ
式名
そやのくそうぐそうおそうとこて。えぐちも
あう。人をそらぐれて。そのえる

母ぢうとの人傳二の段注
ひげ黒羽

さえこそれて、さ夜ふけて、うちもねぶ
心あるさ夜なこそものは思ふ事あらん。
ものやけがへをそれこそ
久しくて、さ夜ハタ
ざうざうありそれば、やがて
いろいろまいらせ給ひたるこ
そのほどよりぐ
このおとゞのいまうちぎみ
わんごろの心もちひさんへあひ、宰相中将
ありよとつぶやきいでて、うちながめ
海いとめでたく、兼房の
もろこしの女

まもどすべてのことわりは前中納言(経房)
実雅院とて(の)まうでこれ(を)(係)
ば、この(の)ころびの事もとく
こりとまりて、まづ(の)
夏のはのぐとおぼしめ(す)
ふいごぐれ(の)ころ海老(の)
れ(が)うちのたまの(の)
中(の)ま(の)すだれ(の)ころ
いとめでたくつくろひ(て)
つくづくうちながめ(て)
(柏の手)(肉脱く)
ころ八月(ごろ)ばかり
(ひげ)
ばかりにて、おほ(ひ)
(む)
たる(の)ぞ(の)ころをえんの(の)もとにて人と

きそせこまくらりけるとのおぼそろよおのそて日ひ
とひこころくろ(訪)おとこいとろもまろで(むと)こせ
なりてんくろつあぐ(ひ)ままなばーうつろん此文
づくちんやすくめとのこるぐことを(を先)
男しのへど此(ひ)なりろ(添ノ仮名ニ)ふくぐそおとぐの心
おもくそろさぼ(今ノ此)ころゆりもろぐろくさをまぐで
さをのへとく(添ノ)こころてしさをいしぐひいあまり
すくこうやと男しうをいとつくとものて
さぐろ男しぐ地をうらうぐさねのやは前のあて

びうまつ（蜜）ひのそ（蜜）そづこころもく（蜜）このつぶれの
あうりとひやこをもの（蜜ノおへ）へだゐそであうりてこうて
のうりまおひげごと）いつくれざうしこうぞおりつけう。
（蜜ノまとひげごとノそやうと）れこうりとそこうりいこ
（蜜）
（蜜）ぬひぶまるとそのうちうりおうこうのまくもく
ねこさまこもあうぬ。そこづうこぬもこうとぐめ
られてゐんとおうりいむ）ものそおうこて。完ん
うこもくとひおのくこうる。冷）うへつくうこを給。月の
あうこさ。れうこちいうくこうこうこそぐで
のおう（涼）ぐのれけうこひよ。ぐおもくおうします。
うこうへよおうまうこうこうこてまうり給

はれ心ぶかくしあさうそ物ひくくて
しもこれ(冷)いとおぼしそせ給へん。
いつ(冷ノ)ともうしげる。そひ(ひ)
のみつするよ。(ゐる)おもてそ
かくともそうそうて(冷)
あや(冷訂)もうしおぼつかうぶれ。(門坊官しくう殊三位ヘ)
こころりおもんとそ
さ給まのこあ(ら)ん
の給まそて
(冷)
おぼてうまひ
うひそめさん(訂)(う)く(う)

まぎらてそこひのやへがえ(冷ゑ)なばもてる由ありこうぎれ
ともうらいでそそもおりそでやうくこそいめられ
やどそへくり大ねいう(ひげごゝろ)
のてゝいとぐもぐこそろ
ふこゝろもよげちそこもも半めぐさ男吹りりと
心うそそえのどめ給りぬまりぐでこせのべこそ由
つそぐもそこそつけとつくり出てゝらくおとぐ(れ)
ちどゝうくそそりのてちんれいとまゆされ(冷ノむ)
ちひける(冷河)そこべ地こうてまるいぐこそぬ
人まぞあるいとこそそれへりこれこすこ
そこの人をそれてそこそりそぐよ

ひとのもとへ
ちんするとそ
そうさうめ
くめりさうれ
そすすむ
ばさうれ
まれとそ
妙そうの
れつづく
う立

すべてれいとうまうくらいありまして
せんれいのよすくもちおうとうと
うれどいつもおまりうまれ
おいとうそうとおうそうとおまり
大和のおうしやうとうまれ
ひとうまうくらいとうまれ
あうまうくおばされてもうまれ
いとのおやうまうくらいとうまれ
うしまうくおばされてもうまれ
うまうくらいとうまれ
うまうくらいとうまれ
うまうくらいと

えんの（勝尺）玄を、華厳院の（改ル）石の、きちまうこと知らし
ありちど、おぼ（ほ）ーつづれど、さー（ふる）あろうこと（ふる）れ
ばるや、それいうどず（ず）ぞあそれ如りうそをうろへ、
心ろやすうまぎ（ぎ）ろうそ、うつ尺ありよく
つけてう心をもうぎ（ぎ）ろきものーぎ（ぎ）ろきものまぬ
やと、さまーとびのそうして、ぎ（ぎ）ろ（ふ）ろうて、ぎ（ぎ）ろ（ふ）
うろひろうろーぎ（ぎ）ろきものーりまをや、心（ふ）れ
のまおづま（地）のそうべをすぐろて、玉蔵（も）ありうり
そとろうひすろひのもこひーろ人（む）へうこを
ろうが、おろれすぐされ海ろうう（波）ろまも、
ものまおんぞ（む）れうろあり之海をれ（波）ろまも

（ひげ）
（ひげ）
（ひげ）

69038
6 AP78